

4月20-21日の国内株式市場の下落について 新型コロナウイルス感染拡大への懸念再燃

2021年4月21日

3度目の緊急事態宣言の発出濃厚となり市場の警戒感高まる

4月20-21日の国内株式市場は、日経平均株価の下落幅が2日合計で1,000円を超えるなど、それまでの堅調さとは打って変わった展開になりました。

株価下落の主な要因は、国内における新型コロナウイルスの感染再拡大と考えられます。東京、大阪、兵庫に関しては、3度目の緊急事態宣言が出される方向と報じられています。特に大阪では医療のひっ迫が懸念されており、過去と比べても深刻さが増しているといえそうです。感染力が強いとされる変異株の割合が高まっていることや、日本のワクチン接種が遅れていることも、市場の警戒感を強める材料になっていると考えられます。来週以降、企業の決算発表集中期を迎えますが、足元の感染状況を踏まえ、企業が先行きに対し過度に慎重な見方を示すリスクなども意識されていると思われます。

20日は、海外株式市場でも新型コロナウイルスへの懸念がみられました。米国、英国などは新規感染者数が既に大きく減少していますが、ドイツやフランスは新規感染者数が高止まりしているほか、インド、あるいは南米や中東の一部では感染が急拡大している国もあり、世界的には感染拡大が依然続いていると言っても過言ではありません。ワクチン接種の進展により、いずれは世界的に感染収束が見込められると思われませんが、まだしばらくはウイルスを恐れる市場とも時折つき合っていく必要があるようです。

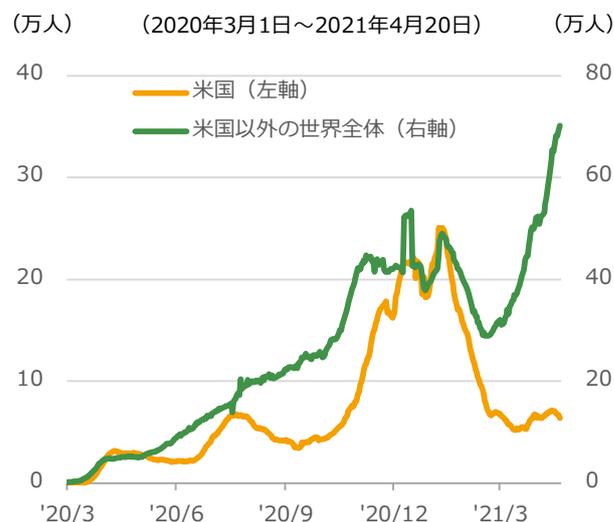
■ 株価と新型コロナウイルス新規感染者数



※新規感染者数は7日移動平均で4月20日まで

(出所) ブルームバーグより大和アセット作成

■ 新型コロナウイルス新規感染者数



※新規感染者数は7日移動平均

(出所) ブルームバーグより大和アセット作成

当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。